(iii) Data Authentication

The Parties recognise the importance of reliable instrumentation for the purpose of timely and accurate safeguards related data, and of data authentication for safeguards implementation. The Government of the Republic of India and the operator of the Facility shall cooperate with the Agency to apply adequate authentication methods to data and samples collected for safeguards purposes.

(iv) Access and Transparency

The Government of the Republic of India and the operator of the Facility shall provide sufficient access to the Agency to install and maintain safeguards equipment, and to inspect the complete process activity of the operator, including sample-taking, to the extent required for safeguards implementation and maintain a complete understanding of the Facility.

(v) Annual Cleanout Inventory

Nuclear material shall be removed from process lines annually in order to make it available, to the extent practicable, for accurate physical inventory verification by the Agency.

(vi) Anomaly Resolution

The Government of the Republic of India and the operator of the Facility shall cooperate with the Agency to resolve anomalies, if any, including material accounting anomalies, in a timely fashion.

7. Any special fissionable material that may be separated by reprocessing subject to the conditions as specified in this Annex shall be stored and utilised in national facilities in the Republic of India under the safeguards by the Agency.

告示

○外務省告示第二百六十号

平成二十八年十一月十一日に東京で署名された原子力の平和的利用における協力のための日本国政府とインド共和国政府との間の協定について、両締約国政府が同協定の効力発生のために必要なそれぞれの国内手続を完了したことを相互に通告する外交上の公文の交換は、平成二十九年七月二十日にニューデリーで行われた。よって、同協定は、その第十七条1の規定に従い、同日に効力を生じた。

平成二十九年七月二十日

外務大臣　岸田　文雄

○外務省告示第二百六十一号

平成二十八年十一月十一日に東京で原子力の平和的利用における協力のための日本国政府とインド共和国政府との間の協定が署名された際、同協定に関する次の見解及び了解に関する公文の署名が行われた。

平成二十九年七月二十日

外務大臣　岸田　文雄

見解及び了解に関する公文

一　本日署名された原子力の平和的利用における協力のための日本国政府とインド共和国政府との間の協定（以下「協定」という。）に関連し、下名は、次のとおり記録する。

(i)　日本側代表団の代表は、当時のインド共和国外務大臣プラナーブ・ムカジー氏が二千八年九月五日に行った声明（以下「九月五日の声明」という。）が協定の下での両国間の協力の不可欠の基礎を成す旨述べた。

(ii)　協定第十四条の規定を実施するに当たり、日本側代表団の代表は、(i)に規定する基礎に何らかの変更がある場合には、日本国政府が同条に規定する権利を行使し、及び同条に定める手続を開始することができる旨述べた。

(iii)　日本側代表団の代表は、九月五日の声明に違反するインドの行動は通常の状況からの深刻な逸脱とみなされることとなる旨述べた。そのような場合において、協定の適用を受ける核物質の再処理は、協定第十四条9の規定に従って停止される。

(iv)　日本側代表団の代表は、更に、そのような場合において、発電の中断がインドの経済に及ぼす悪影響についての補償及び契約上の義務の中断を理由とする損失についての補償に関するインドの請求に対し、日本国が協定第十四条9に規定する協議を通じて異議を申し立てる権利を留保する旨述べた。

(v)　インド側代表団の代表は、九月五日の声明をインド共和国政府が再確認する旨述べた。

二　前記については、両国の見解の正確な反映であることが了解される。

二千十六年十一月十一日に東京で

日本国政府のために

大菅岳史

インド共和国政府のために

アマンディープ・シン・ギル